

六甲カトリック教会 教会報



喜びの福音を多くの人に伝えることができますように

主任司祭 英 隆一朗



今度の復活祭では、20名ほどの方（大人と子ども合わせて）が洗礼を受ける予定です。皆さんが六甲教会の祈りを熱心に唱えてくださった実りでしょう。多くの方が主の福音を受け入れ、主イエスに従う決意をされたことを本当にうれしく思います。洗礼志願者の方々とともに、主イエスの復活に向けて祈りを深め、節制を心がけ、魂を整えていきましょう。

この春からコロナウイルスによる感染症対策が大幅に緩和されます。それに合わせて、教会活動全体を少しずつコロナ前の状態に戻していくつもりです。まずは復活節に入ってから、典礼のやり方をコロナ前のやり方に戻します。日曜日は7時30分と10時のミサだけにして、奉納や献金、聖歌の歌唱なども元に戻す予定です。細部について、直前にお知らせしますので、ご注意ください。

典礼だけでなく、教会活動全体をなるべく活性化していきたいです。単に元に戻すということではなく、コロナの災禍を糧として、新たな教会づくりという願いを込めて、教会生活や信仰生活をより充実させていきましょう。

昨年の9月から教会で働いてくれたニティン神学生が3月末に東京に戻ることになりました。教会では、ホームページの構築やSNSの発信、教会学校の手伝いなど、いろいろ活躍してくれました。彼に感謝するとともに、彼が春から始まる神学の勉強にしっかりと取り組み、司祭に叙階されて、人びとのために奉仕できるような存在になるようにお祈りください。

収穫は多いが働き手が少ない（マタイ10:37）という現実もあります。多くの人に福音を伝えるため、働き手を募集しています。

・**ホームページ管理者**：ニティン神学生のおかげで教会ホームページが刷新されました。彼がいなくなるので、ホームページを管理できる人を募集しています。比較的若い人で、ある程度コンピューターのことが分かっている人がいればご紹介ください。SNSチームも立ち上げました。SNS一般に興味のある方がおられればぜひご協力ください。

・**教会報編集スタッフ**：こちらも人手不足です。編集の経験のある方、興味のある方がおられれば、手伝ってみませんか。写真を撮ることに興味のある方も募集しています。

・**図書係**：今でも図書室は利用されています。平日はオープンスペースとして、近隣の若者から年配の方まで勉強に利用されるようになりました。また信徒の方も図書の貸し出しを利用されています。本の整理や部屋の管理などのために人手が必要なので、興味ある方はご連絡ください。本好きの方、大募集です。

・**土曜掃除係**：従来は平日に地区会主体に掃除をしています。平日は無理だが、週末だったら手伝えるという方がおられれば、ぜひご協力ください。日曜班もあります。掃除をすると、心まですっきりしますね。

よき復活祭を迎えられるように、祈っております。

2022年度第5回小教区評議会議事録(要約)

日時 2023年2月5日(日) 13:00~14:40

場所 信徒会館 第1,2会議室

出席者(敬称略)

英主任司祭、中村神父、宗行議長、三垣.堤 両副議長、大上.多田 両書記

蛭田(財務部、三日月会)、井川直(地区会)、井川伸(社会活動部)、藤井(婦人会)、林(壮年会)、吉村(教会学校)、本下(施設管理部)、詫(広報部)各コーディネータ

1. 英主任司祭から

- 1) 2023年度の小教区評議会、評議員の人事がほぼ固まった。
- 2) 新年度の典礼について
 - ・新年度(ご復活後=復活節第2主日)から原則、コロナ前の体制に戻す。
主日ミサ 土曜日 18:00 日曜日 7:30 10:00
平日ミサ 7:00(小聖堂にて)
 - ・新しいミサ曲を歌う(平日ミサは歌なし)
 - ・奉納、堂内献金も元に戻す。
 - ・聖週間のミサは4/6(木)7(金)8(土) 19:00のみ
復活の主日(4/9)のミサは7:30、9:00、11:00の3回
 - ・洗礼式 大人15人は復活徹夜祭にて。こども4人は4月16日(日)初聖体と併せ行う
- 3) 春の墓参 3月12日(日) 昨年秋と同じ方式で行う
- 4) 新年度から、維持献金を除き、その他の献金は①愛の献金②東ティモールへの献金③一粒会④その他の献金と細分化する。
- 5) 青年会が昨年12月、中高生会が今年1月から立ち上がった。小教区評議会に参画する。
- 6) ホームページがリニューアルした。メンテナンス、更新作業の責任者を急募したい。
- 7) 小教区評議会は新年度から隔月に開きたい。
- 8) 6月に従来の「財務報告会」を拡大して「年次報告会」を開く。
- 9) 2023年から2024年にかけて開催されるシノドス(世界代表司教会議)について、信徒としての取り組みを話し合う機会を持ちたい。

2. 報告事項

- 1) 教会学校クリスマス会 12月17日(土)に実施 報告者 吉村
- 2) 典礼部
 - ・祈りと音楽の集い 12月18日(日)
来場者約150人。終了後に茶話会も。
3月19日(日)の四旬節音楽の集いも同じ形式(音楽チーム中心)で行いたい。
 - ・ミサ中の写真撮影は配慮が必要なので、広報部、教会学校などの代表撮影としたい。家族の撮影は自席からのみとするよう事前アナウンスなどで協力依頼する。
報告者 中西(代理宗行)
- 3) 新年会(成人祝福式)茶話会形式で参加者約120人、盛会であった。報告者 井川直
- 4) 教会清掃について 土曜班新設、シナピス大阪に依頼も 報告者 井川直
- 5) 社会活動部
 - ・越年・越冬の炊き出しは12月29日及び1月1日。
 - ・2月4日(土)シナピス神戸の今年度振り返り静修会が行われた。報告者 井川伸

6) 神戸地区宣教司牧会が1月29日(日)住吉教会で開かれ、2023年度の役員は以下の通りとなった。議長=三田教会 会計=六甲教会 会計監事=垂水教会 報告者 宗行

7) 施設管理部から

- ・掃除機は集塵パックの状態をよく点検すること、
- ・鐘楼のシステム取り替えは4月2日までに終了する予定だが、場合によって復活祭以後になるかも知れない。
- ・聖堂内の音響改善のため、業者に複数案の見積もりを依頼中。 報告者 本下

3. 協議事項

1) 小教区評議会は隔月開催を踏まえ、新年度は以下のとおりとする。

5月7日、7月2日、9月3日、11月19日、1月14日、3月3日

なお、5月7日の新年度第1回評議会の前に、地区会役員を含め役員全体会議を開催したい。

2) 地区会役員の決定を待って、新役員についての公表は教会報4月号となる。

3) 新ホームページのメンテ、更新、手話ミサの動画アップ、さらにSNS普及のためのレクチャーなど必要ではないか。

4) ご復活のお祝い会は、復活の主日当日の茶話会形式で予定。3月5日の小教区評議会で最終決定。こどもの洗礼者については初聖体(4月16日)と一緒にお祝い会を行う。

5) ニティン神学生の送別会を3月26日に行い、餞別を贈る。

次回(第6回)小教区評議会 3月5日(日)13時から 信徒会館第1,2会議室にて

■ 三日月会例会のお知らせ ■

3月度の「三日月会例会」は下記の通り実施致します。

(1) 日時: 3月21日(祝) 10:00~12:00

(2) 場所: 大聖堂、イグナチオホール

(3) 内容: ミサ(司式: 中村神父) + お話(ニティン神学生)

約半年間六甲教会で生活されたニティン神学生は、4月より東京で神学の勉強に専念されます。そこで、六甲教会での生活で感じたことを中心に、いろいろお話いただきます。

尚、参加・不参加は所定の申込み用紙でお願い致します。

春の墓参についてお知らせ

日時 3月12日(日) 長峰墓地にて

14:00~納骨式

14:30~個人墓地の祝福

15:30~共同墓地での墓参の祈り の3部構成で執り行います。(墓地委員会)

祈りと音楽の集い =コラールで綴る主の受難=

2023年3月19日(日) 14時半開演(14時開場) 主聖堂にて 入場無料

出演 六甲教会オルガン奉仕者

奥田仁美 熊澤加代 清水真理子

野村友佳 松井公子 三浦優子

コラール独唱 谷崎加奈(カトリック香里教会)

曲目 J.S. バッハ「キリストはわれらに至福を与え BWV620 ほか

ニティンさんの日記から

神学生ニティンさんも3月でお別れ。東京の神学校に進学します。六甲での最後のフリーエッセイです。

教会でのスケート ニティン・コエリヨ



中高生会のおかげで久しぶりにスケートに行きました。こんかい二回目だったのでまだちょっと怖かったです。でも何とかスケートができました。疲れていても楽しかったです。スケートをしている間、皆が助け合っ
てスケートをしているのを見て驚きました。私は自分のスケートのスキルに自信がなかった
ので、誰かと手を繋いで滑るのが怖かったです。だから私は一人で滑っていました。

スケートを教会での生活に例えると、六甲に来た時は多くのことに自信が持てませんでした。でも六甲教会のみんながスケートをするのと同じように、たくさん
助けてくれました。私の日本語の勉強と、ここ六甲での生活を手伝ってくれた人々がいま
した。ミサやロザリオの時に一緒に祈ってくれた人もいました。また、信者さんたちのおか
げで、巡礼に行って日本のさまざまな場所を訪れることができました。教会の神父様たちと受
付の人たちのおかげで毎日の生活が楽だったと思います。もちろん教会学校が一番楽しか
ったです。

良いスケートをするには良いバランスが必要なので、良いクリスチャンになるにはバラン
スの取れた生活が必要だと思います。ここ六甲教会でバランスの取れた生活を送れるよう
に助けてくれたすべての人に感謝しています。もちろん、ス
ケートをしながら他の人を助ける自信はまだありません
が、機会があれば、少なくとも教会で他の人を助ける自信
を持てるように願っています。すぐに私は神学の勉強を始
めます。ですから、いつも私をあなたの祈りの中に留めて
おいてください。この教会での快適な生活をありがとうご
ざいました。



私の好きな聖書のことば

三浦智子



「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」 テサロニケの信徒への手紙 5:16~18

そんなこと、できるかしら…。年齢を重ねて大人になればなる
ほど、悩みや気掛かり、しでかしてしまった事柄や、受け止めき
れない悲しみが襲ってくるようです。でも、不安や悲しみに心が
いっぱいになってしまうときに「暗闇に飲み込まれないように明る
い方へおいでなさい。見守って下さる手をとりなさい」と言う、
にこやかな励ましに思える言葉です。だから今日も『よかつた探
し』をして「きっと大丈夫」と感謝と希望を繋いでいます。

トルコ・シリア地震被災地救援募金

トルコ・シリアの被災地の人々への義援金を募っています。聖堂入口に募金箱を置
いています。よろしくご協力下さい。募金はカリタスジャパンを通じて届けられ
ます。

社会活動部ボランティアグループ紹介（3）

ラリグランスクラブ =私のネパール ボランティア活動=

五十嵐園子

「ラリグランスクラブ」って何？と思われる方もおられるでしょう。ネパールの生活困難者を支援する、小さなボランティアグループのことです。「ラリグラン」とはネパール国花の赤いシャクナゲを意味します。

きっかけは1995年の阪神淡路大震災でした。幸運にも我が家は倒壊からまぬがれ、庭の井戸をご近所に開放するとともに、救援ボランティアの友人達に「お休み



どころ」として我が家を使っていただきました。私は、この経験を通して奉仕の喜びを知り、今後の人生では、困っている方たちの役に立つことをしたいと思うようになりました。

一方、日本国内には既に多くの慈善活動団体が存在しています。比較的裕福な日本よりも、世界の発展途上国に、私は意識が向いていきました。そんなおり、母校の京都ノートルダム教育修道女会の姉妹校が、ネパールで学校を運営していることを思い出し、お手伝いにネパールを訪問する機会を得ました。現地にはそのノートルダムの姉妹校とイエズス会のセントザビエル校のふたつがあります。訪問の折にはノートルダム校のシスターとセントザビエル校の神父様大変お世話になりました。両校とも今やネパールでは有数の有名校となっていることを知りました。

しかし、私が衝撃を受けたのは、それら有名校の校庭を、垣根の外からのぞいている子供たちの目でした。地域からも教育からもはじき出されたらしき子ども達です。私は、実際に子供達と目が合って、この子らのために私に出来ることがないだろうか強く心が動かされました。それがラリグランスクラブの始まりです。ノートルダムのシスターや、ネパールのポカラで障害者施設をされていたイエズス会の青木神父様からお話を伺い励まされ、ネパールの低所得層の人々のために何かをしようと決心したのです。

ネパールの赤いシャクナゲは5メートルを超す大木です。私の小さな活動もあのように大きく花が開くようになればいいなと思い名付けました。

それから20年経ちました。紆余曲折を繰り返し、数年前からは視覚障害児の教育支援を柱にしています。私の役目は、日本にいて支援をしたい方々と、現地で救いを求めておられる方たちをつなげるパイプ役です。偏見と貧困で苦しむ視覚障害児とその親に対して、ネパールで自立できるための教育と生活支援をしています。活動資金はすべて、活動を支援してくださる方からの寄付金とバザー売上金のみで賄い、今では年間約130万円で運営しています。六甲教会でもバザー会場の片隅を使わせていただき、売上金はすべて、ネパール視覚障害児の生活や、学費の一部になっております。神様からのお恵みとお導き、六甲教会の信徒様のご協力に深く感謝いたします。

私事ですが去年傘寿を迎え、癌を抱える身となりました。ラリグランスクラブは、2年後の視覚障害児の最後の大学卒業を見届けたところで閉会する予定です。これまで応援・支援いただいていた方々に、この場を借りて深く御礼申し上げます。まだあと2年あります。ぎりぎりまで責任を全うする所存です。 写真は2019年ラリグランスクラブの仲間たち

◆ 社会活動部 今月の予定

3月1日（水）	10時～	手芸の集い	第1、第2会議室
3月11日（土）	10時～	炊き出し	中央教会内活動センター台所 メニュー カレー
3月27日（月）	9時半～	ともしび会	教会台所（児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り）

アレッサンドロ・マンゾーニ

森 道子

『いいなづけ』（平川祐弘訳） 河出書房新社

ペストはコロナを凌ぐパンデミックです。コロナ禍で悩む私たちはペストを描いた小説を読むことでカタルシスを感じます。

『いいなづけ』は、17世紀ミラノを襲ったペストの惨劇を史実に忠実にドラマ化した名作で、イタリアではダンテの『神曲』に次ぐ国民的作品です。作者の逝去に際し、ヴェルディは「レクイエム」を捧げました。教皇フランシスコは少なくとも四度読了した愛読書だと言います。ですが、日本ではあまり知られていません。社会、登場人物、宗教的背景がカトリックでない人の関心や共感を呼びにくいのでしょうか。でも、苦境・危機における人間のあり方は普遍です。



アレッサンドロ・マンゾーニ

物語は1630年代、スペイン支配下のイタリア・ロンバルディア地方で始まります。美しいコモ湖畔の村の農民レンツォとルチアは、ルチアに横恋慕した悪徳領主に結婚式を妨害され、仲を裂かれたうえ、戦争や暴動などの苦難と試練にさらされます。最後の試練がミラノのペストで、猖獗を極めたペストの惨状が過去の資料を駆使して活写され、歴史的証言を提供しています。なかでも、ペスト患者を強制収容、介護するラザレット（ルカ16章のラザロに因む）と呼ばれる隔離病院（写真下）の記述は印象深く、中央の八角形チャペルは現在観光スポットです。一万人以上が放り込まれ、過酷で悲惨極まる情景に、命を賭けて介助に尽くしたカプチン会修道士たちが描かれます。彼らの働きがなかったら、ミラノは壊滅していたで

あろうと資料は伝えています。ここで療養中のルチアにレンツォは再会し、領主はペストに斃れて、いいなづけたちは晴れて挙式します。

人物造形も巧みで、権力者に弱い村の司祭アッポンディオ、聖人のようなクリストフォロ修道士、妖しげな尼僧ジュルトルーデ、謎の城主インノミナートなど聖俗の人物が万華鏡のように多彩です。他方、凄惨で醜悪なペストとは対照的な清々しく美しい自然描写が読者をほっとさせてくれます。



今月の聖人

プティジャン神父

プティジャン神父は、聖人にも福者にもなっていませんが、ぜひ3月に紹介したい神父です。というのは、長崎で信徒が発見されたのが3月17日。その時居合わせたのがプティジャン神父だったからです。プティジャン（ベルナルド・タデー・プティジャン）はフランスの出身、宣教師として幕末の日本に派遣され、長崎のフランス人居留地のための教会（のちの大浦天主堂）を建立。そこへ訪ねてきた地元のキリシタン住民と劇的な対面を果たします。プティジャン神父はキリシタン禁制の幕府の政策に抗議し、逮捕された信徒の釈放を訴えたりします。明治政府になってからようやく禁制が解け、のちに教理書の日本語訳、日本人の司祭養成、本国フランスからの宣教師増員派遣の手配など、禁制明けの日本のカトリック布教に力を尽くします。1884年、長崎で死去。大浦天主堂に埋葬されています。（詫洋一 記）



図書室から 1月に入った図書

- ☆ わたしの靈魂における神のいつくしみ 「聖ファウスティナの記事」 聖母の騎士社
聖ファウスティナは 20 世紀初め(1905-1938)のポーランドのシスター(神のいつくしみの聖母修道女会)です。2000 年にヨハネ・パウロ二世に列聖されました。「神秘主義文学の真珠」とされる大著です。
- ☆ キリスト教礼拝史 著:W. ナーゲル 訳:松山與志雄 教文館
豊かな伝統の遺産。カトリック、正教、プロテスタントを含めたエキュメニカルな視野に立ち、新約聖書の時代から現代までの礼拝の変遷を詳細に辿って、今日の方向を示唆した古典的名著。 礼拝用語小事典付き。(本のオビから)
- ☆ スピリチュアルな痛み ウァルデマール・キッペス 弓箭書院
薬物や手術でとれない苦痛・叫びへのケア。 根源的な痛み、不安からの解放。
- ☆ 友として、司祭として オリビエ・シェガレ フリープレス
司祭叙階金祝記念出版 日本宣教に確かな地歩を印すパリ外国宣教会の敏腕管区長が語り尽くした宣教師としての喜び、社会問題へのアプローチ法、そして若い世代へのメッセージ! 福音に促される熱情があなたを揺り動かす。(本のオビから)
- ☆ 寅さんとイエス 米田彰男 筑摩選書
フーテンの寅さんとイエスはよく似ていると著者の清泉女子大教授の神父は語る。
- ☆ 聖ベネディクトゥス 危機に立つ教師 坂口昂吉 南窓社
快樂の追求より至福の達成へ! 沈みゆく世に燈火を掲げ、健全な常識と生きた信仰により、神と隣人を愛し続けた師父の生涯と教えを描く。

《図書室の担当者の募集》

- ※ 図書室の図書の整理をして下さる方を募集しております。教会図書室を多くの方にご利用いただけるよう知恵と力を提供されて下さる方、お力をお貸し下さい。ネットメディア情報の時代になっておりますが、まだまだ啓発される良書も多く、教会員の皆さんと、地域の皆さんと、共有できる場を作っていきたいと思っております。

《お願い》

- ※ 教会に図書を寄付・寄贈される方は、その図書の推薦文や、教会図書室に相応しい旨のアピールを添えて事務所にお申し出ください。
- ※ お気付きのこと、希望の図書等ご遠慮なくお知らせ下さい。メモにお書きいただき、**図書室のご意見箱**にお入れ下さるか、**事務室**におあずけ下さるようお願いいたします。



難民支援チャリティーコンサート「いのりの花束」

3月18日(土) 14時から六甲教会主聖堂にて。出演 こいずみゆり、山下憲治。曲目「イエスさまのみ心」「Jesus, remember me」「マリアさまの手をにぎり」ディズニー「小さな世界」など。入場無料。ウクライナ難民支援のための自由献金にご協力ください。教会にチラシ(写真)があります。

この楽器は日本ではまだ幅広く知られていないので、少しばかり紹介したいと思います。よく間違えられますが、映画「第三の男」で用いられたチターとは異なるもので、また、インドの民俗楽器シタールでもありません。その歴史は古く、旧約聖書の中にもその名を見ることができます。1885年頃、ドイツで改良普及したアコード・チターが原点ですが、その後衰退、1960年頃、修道女により屋根裏から再発見され、修道院や教会で聖歌の伴奏楽器として蘇りました。以後、改良が重ねられ、南仏の修道士たちにより手作りされたこの楽器は、幅広く使用され、祈りの楽器として奏でられています。



私は22年前に主人を亡くし傷心の折、ボスニア・ヘルツェゴビナの MARIA 出現の地へ旅をした時、現地の教会で、このフランスシターの音を初めて聴き、その静かで優しい音色に癒される思いをしました。その後、日本でもこの楽器を教えておられる方が神戸にいと知り、習い始めました。優しい音色を出すのが結構難しく、それだけに飽きない楽器です。祈りと讃美、心の癒し、ボケ防止のために、高齢者になった今も細々と続けております。

感謝のお手紙を紹介します。

数々の事情で教会に来られない方のために、教会報を毎月届けて下さっている有志の方々がいらっしゃいます。以下の手紙はこの1月に教会に届いたもので、三田地区の松田房子さまからのお手紙です。高齢の方、身体の不自由な方、遠隔地で交通の便がない方などが、届けられる教会報を楽しみに待っておられる様子がわかります。配送の労をとっていただいている有志の方々に厚く御礼申し上げます。(広報部)

いつも教会報をご送付いただきありがとうございます。この度戴いた一月号も、隅々までゆっくり読ませて頂きました。外出の不可能で閉じこもり、孤独に陥りがちな私を含めて、他の高齢者の方々にとっても、こうしたご配慮は、教会とのつながりとして信仰生活に力を戴いていることと思います。

教会は私にとって家族共々、主の現存のうちに皆さんと共に交わり共に祈って、その恵みを分かち合っていく場として、今に至るまで信仰生活の中心として欠かせない絆となっております。

そんな教会に出向けない現在、一人暮らしの不自由さ、寂しさ、重さが募る日々ですが、こうした中で届いた教会報を手にしてゆっくり読みながら、次第に心が軽く、明るくなっていくのを感じます。私にとっては生ける水となっております。

普段、なかなかお会い出来ない英神父さま、中村神父様のメッセージも、教会報を通して心に触れる福音として拝読させて頂いております。

講演会、催し、活動グループの報告等の情報と分かち合いの記事や、いろいろな写真等、私も教会で愉しく皆様と共に参加している実感です。

これからも、六甲教会が使徒的教会として、主の生ける泉となって頂けることを心からお祈りいたします。今後共、どうぞよろしくお願ひ致します。(MARIA・松田房子)

六甲春秋 春よ来い、早く来い

暖かい春の到来が待ち遠しい。自室の窓から周りを好奇心に駆られて眺めているが、新たな発見があり楽しいものだ。元旦に多くの日本人は「初日の出」を仰ぎ見ることを喜ぶ。私も長府教会に居た時は、功山寺のそばの小道を登り、小さな尾根の上から御来光を喜んで迎えたものだ。驚くことに、そこには既に二十人近くの見ず知らずの仲間たちがいた。しかし最近のあらたな気付きは、何も高いところに昇らなくても、何処か他所に行かなくても、自分の部屋から昇る太陽を仰いでいつも喜ぶことができる。太陽は毎日すこしずつ昇るところをズラしながら、時には雪雲や黒雲に覆われ纏いつかれながらも。

教会の庭は奉仕の方々の毎朝のご苦勞によって掃き清められ、今は落葉のかけらも無い。しかし何とサクラや銀杏の梢にはもうぎっしり新芽が群がり、今や遅しと出番を待っている。よく見ると、何だか木の色全体が少し変わってきたようだ。まだ裸の枝越しには、周りの景色やマンションや家並みがよく見えるが、驚いたことに、ほんの少し大阪湾の海まで眺めることが出来る。うっすらとその背後に煙る山は、紀州の山なのか。

しかしぼんやり外の景色を眺めている間に、2月22日には灰の水曜日を迎え四旬節に入る。教会の暦では、主イエスの復活に向けた大いなる恵みと救いの日々が始まり、心を入れ替えてイエスの出来事に専念すべき償いの時節といわれる。しかし日本では有難いことに春の到来の季節にピッタリ重なり、イエスのご復活を喜んで待ち望む心が励ま

される。四旬節の守りについて、多くの言葉を連ねることは簡単ではあるが、余り意味がないかもしれない。私たちは告解の度ごとに、いつも新しい罪・咎に気付き神に赦しを願うのではない。また今までも罪を忌み嫌って、苦しい努力や節制をしなかったわけではない。しかし今年少し別の対応を勧めたい。自分の罪や過失に対してむしろ病気、それも持病として気長に忍耐して、時間をかけて向き合えばどうだろう。つまり、元の木阿弥になってもブリ返して何の成果が得られないと感じても、慌てず騒がず、ゆっくり漢方薬を飲むように毎日続けることが大切なのだ、たとえどんな痛ましいセットバックがあっても。10年や20年をかけても、自由と解放の恵みを固く信じて。

またこの春を期して、新しい生活に歩み入ろうと決心する若者たち、大学生活、結婚、就職、出産など、恵まれた古巣を後に、未知で図り知れない新たな人間関係のウズに飛び込んでいくこと、冒険にあえて臨もうとするツワモノたちのために特に祈りたい、七転び八起きしながらも、時には痛い目にあいながらも、前進を絶えず心がける人々のために、大いに声援を送ろう。彼らの姿は、かつての自分の姿でもあろうから。三寒四温を経て、長雨でも、春はもう近い。



中村健三 合掌

- ◆「教会のご近所訪問」はお休みしました。
- ◆2月号の「越年越冬炊き出し」の記事中、近藤恵美さんは近藤絵美さんの間違いでした。おわびして訂正いたします。

【2023年3月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
					初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 ◎灘北2・阪神	
5	6	7	8	9	10	11
四旬節第2主日 小教区評議会 13:00～					十字架の道行き ◎灘南・神戸西	教会学校卒業式・終業式 同合宿～12日
12	13	14		16	17	18
四旬節第3主日 春の墓参					十字架の道行き ◎灘西・中央	
19	20	21		23	24	25
四旬節第4主日		教会受付休み 三日月会例会			十字架の道行き	教会学校 2年生1日練成会
26	27	28	29	30	31	
四旬節第5主日	定期清掃				十字架の道行き	

◎は掃除当番地区

編集後記

- 春は異動の季節。「お元気で」と「どうぞよろしく」が行き交います。神学生ニティンさんはさらなる勉強のため東京へ。六甲での半年は短かったけれど充実していたのではないのでしょうか。
- ことしの「ご復活」は4月9日、「灰の水曜日」から始まった四旬節が3月いっぱい続きます。十字架の道行き、主の受難、私たちが深く内省する時節です。

<p>次回4月号の発行は4月1日（土）です。原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAXやメールでお願いいたします。皆様からの原稿をお待ちしています。あわせてご意見もお寄せ下さい。広報部</p> <p>Eメール renraku@rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 英隆一朗 編 集 広 報 部</p>
--	---